

活気あふれる都泉祭

泉学園新聞

宮崎県立
都城泉ヶ丘
高等学校
新聞部
発行

3年7組最優秀賞受賞

今年の都泉祭は「泉ヶ謡歌」というテーマのもと行われた。一日目は三ホールにてダンスやいずみArtistStage、合唱の部などで大いに盛り上がった。新型コロナウイルスの感染対策緩和によりが保護者の入場も可能となった。

全校生徒が参加した合唱の部では「青い鳥」を歌った3年7組が最優秀賞を見事勝ちとった。

実行委員を務めた益留大和さんは「初



▲最優秀賞を飾った3年7組

めから最優秀賞を狙っていたので数ある混声四部の中からこの『青い鳥』を選曲しました」と語った。クラス全体で意見を出し合い、完成度の高い合唱を作り上げたそう。なかなか音程を取れず苦労したこともあったが、本番では、全員で1つの合唱を作り出し、その声をホール内に響き渡らせた。同じく実行委員の辻花成子さんは「青い鳥

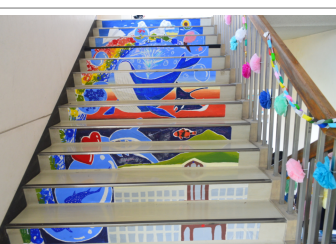
は、難しいハーモニーが多い曲で誰か一人でも間違えた音で歌うと音が汚くなってしまうので一つの合唱を作り上げるよう意識しました」と語った。今後は最後に残された受験に向けて、合唱に臨んだような団結力を活かして、全員第一志望に合格して晴々とした気持ちで卒業したいと未来に向けた前向きな目標を語った。(筒井)

階段アート

今回の都泉祭で1年生は、階段アートの制作を行った。どのクラスの階段アートも様々なアイデアが詰まっていて、学校中の階段を鮮やかに彩った。投票の結果、優勝は1年7組、最優秀賞は1年4組となった。

今回は最優秀賞1年4組の谷口泉葵さんにインタビューを行った。初めに、工夫した点について尋ねた。谷口さんは、クラスみんなで絵を描くために虹の部分をクリック全員の手

形で描くことにしたと言う。また、背景で1日の流れを表すために、背景の色を朝、昼、夕の配色にしたところだと答えた。さらに、クジラの水飛沫は、光が反射することを表すためにラメを使用し、シャボン玉は虹の流れに合わせて春、夏、秋、冬の四季を表現していると話した。



1年4組の作品

多くの可能性をもっているという意味を込めてクジラをメインに描いたという。最後に今回の製作を通しての感想を尋ねた。この絵は谷口さんだけではなく、一緒に描いてくれた9人の大きな力があるそう。また、担任の野村先生、副主任の天神先生、クラス全員の協力で絵を描くことができ、感謝の気持ちでいっぱいだと話した。この絵は次の参観日まで展示されるので、今回紹介したところを踏まえてじっくり見てほしいとコメントした。

(中村)

結果応援の部 競技の部

合計点数

応援の部	
赤団	517点
白団	494点
青団	481点
競技の部	
赤団	1557点
白団	1395点
青団	1503点

応援内容	
赤団	188点
白団	169点
青団	158点
アトラクション	
赤団	174点
白団	165点
青団	171点

団対抗リレー	
赤団	760点
白団	680点
青団	520点
男対抗リレー	
1位	3年4組
2位	2年7組
3位	2年5組
男対抗リレー	
1位	3年4組
2位	2年3組
3位	1年3組

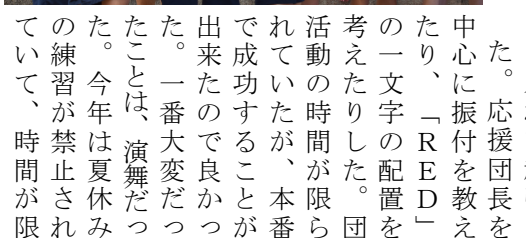
行つた。体育祭を終えて感じたことや尽力

わたれた。一度は天
の影響により延期
なってしまうが、
タビユー

ることができた。今年も赤団、白団、青団の3色をそれぞれ掲げ、競技の部と応援の部での優勝を目指した白熱した戦いが繰り広げられた。

今回は、赤団、白団、青団それぞれの団長にアンケートを

▲赤団の応援の様子



落とさずに、クラスで一致団結して受験に向かつていきたい。へ白団団長 早瀬蒼史さんへのインタビュー

今回の体育祭はコロナ明けの制約がないこともあり、どの団もとても盛り上がったと感じた。リーダーではなくても前に出て応援している人がたくさんいて、楽しかった。私たちはす

長を務めた経験を踏まえて、今後人前で行動したり、集団のリーダーとして活躍したりする機会があれば、この経験を生かしていききたいと思う。

＜青団団長 岩佐樟太郎さんへのインタビュー＞

今回の体育祭はコロナによる制限が緩和され、伸び伸びと活動できて制限のない体育祭はやはり良

さを痛感したが、一丸となつてとりくめたので良かった。特に演舞に力を入れて頑張った。振り付けを覚えることは勿論のこと、太鼓のリズムに合わせるのに苦勞し、何度も練習した。本番では綺麗にかっこいい演舞を披露することができ、練習の成果を発揮できた。一番大変だった。

習のときには団員全員が声を出すという感じではなかったもので、全員で声を出して応援することを促すのが苦労した。

今回の体育祭で仲間と協力することの大切さを学んだ。この経験を生かして、受験もクラスや学年で協力して乗り超えたいと思う。

これまで、3人の

体育祭に対して、楽しかった思い出や達成感が多く語られていた。さらに、たくさんさんの練習を積んだことなど、成功までの道のりにあつたと思われる苦労がとても伝わってくる。何事もみんなで協力して乗り越え、成し遂げた経験はきつと深く心に刻まれたのだらう。

は、全員で応援する
ことの楽しさを感じ
た。今までは全員で
の応援が出来なかつ
たので、高校最後の
体育祭はみんなで応
援して盛り上がるこ
とが出来て、最高に
楽しかった。特に、
アトラクションを力

られた中で完成させないといけないかったが、毎日練習を続けたおかげで本番では完璧な演舞を披露できた。

今回の体育祭はW優勝することが出来、クラスの絆がより深まったと思う。この

習のときに要員の人たちに一生懸命に声を出すように促すことだった。最初はみんな躊躇いがあつたために静かだったが、日々みんなが良い意味でバカになつて熱中してくれたので、助かった。

いなと感じた。人を

▲クッキー販売の様子
 抽選券をひくという流れができていて、スムーズに購入できるようになっていた。販売開始から30分で完売し、並んでいたことは、応援だつ

販売する予定だ」と語
た。今後、ユネスコ
では他のボランティア
活動に積極的に取り
込んだり、ALTの先生
英会話の活動をした
する予定だそうだ。

(大重)

▲歓声を送る生徒

べてに力を入れたが、その中でも演舞を一生懸命に頑張った。夏休み中でも体育館を予約するなどしてたくさん練習を行った。本番では、みんなで声を出して心を一つにすることが出来たので、良かった。一番大変だったことは、心臓練

都泉祭2日目の学校の部では、ユネスコ部のクッキーとビーズ国の旗の販売が多くの人目を引いた。ユネスコ部では普段、都泉祭で販売するためのビーズ国旗作りや橋の清掃な

を行ってゐる。都泉祭でクッキー販売を行った目的は、ボランティアという感じではなくクッキーの売り上げが障害者の就労機会に少しでも貢献できればうれしと感じて部活動で取り組んだそうだ。クッキーを販売していた空き教室には大行列ができ、廊下にはみ

人もいたそうだ。ク
キーを買って、生徒
が企画した抽選会に
加する人も多くいた。
ユネスコ部の部長の
郷重育菜さんは「毎
800個のクッキーと
義友会館で3時間販
していたのですが、今
年は空き教室で販売
たところ約30分完売し
とても驚いた。来年

▲クッキー販売の様子



出すほどの人が並んで
いた。クツキーを
取り、お会計をし、
抽選券をひくという
流れができていて、
スムーズに購入でき
るようになっていた
販売開始から30分
で販売し、並んでいた

も少し数を増やして販売する予定だ」と語った。今後、ユネスコでは他のボランティア活動に積極的に取り組んだり、ALTの先生英会話の活動をしたる予定だそう。

(大重)